2023年2月9日

今泉保育園

武田　博　様

特定非営利活動法人　せたがや福祉サポートセンター

光岡　明子

〒154-0022 東京都世田谷区梅丘1-61-13-301

TEL 03-6413-1506

報告書修正版　送付のご案内

謹啓　時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

２月６日（月）にレターパックライトにてご郵送いたしました報告書ですが、

修正箇所がございました。

①マネジメントの４ページ目、サブカテゴリー３（３－３）評価項目２　１つ目

　評価の黒丸●　「なし」についてますが「あり」の間違えでした

②マネジメントの９ページ目　評価項目２　振り返り

　子どお　→　子ども　誤字でした

大変申し訳ございませんでした。

本日、修正したものをご郵送させていただきます。

報告会当日はこちらの報告書で、どうぞよろしくお願い申し上げます。

謹白

修正版

2022年度
東京都福祉サービス第三者評価

結果報告書

宗教法人延命時
今泉保育園

第三者評価機関 機構 04-123
特定非営利活動法人せたがや福祉サポートセンター

〔事業者の理念・方針、期待する職員像：認可保育所〕

令和4年度

《事業所名：今泉保育園》

1	**理念・方針 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）**
	事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、 特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	（1）生命尊重の保育と心の教育の推進 （2）児童福祉法による乳幼児の保育をする （3）仏教保育三綱領を基盤とし、「明るく・正しく・和よく」をモットーに乳幼児期の人としての園児の主体的活動を促し豊かな情操を養うために心を育てる保育をする （4）家庭・地域と連絡をとり保育する （5）リトミックを取り入れる事により、幼児期における想像力やリズム感、空間把握能力や集団行動等の育成を目指す
2	**期待する職員像 （関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）**
	（1）職員に求めている人材像や役割
	子供たちの両親、家庭に近い信頼を子供たちから得られるような『正しい大人』の姿を子供たちに見せて行ける誠実な人材を求めている。器用であったり技術に頼る必要はなく、和顔愛語を心がけ、『明るく正しく和よく』を子供たちに表現できる人材を求めている。
	（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）
	仏…生命尊重の保育 「いのち」の大切さ、生かされている事への感謝を伝える 法…正しきを見て絶えず進む保育 正しい事「法」に自己を照らし自発性（やる気）を持って行う 僧…良き社会人を作る保育 集団生活の中で「共生」（ともいき）の心を培う

令和4年度

《事業所名：今泉保育園》

調査対象	定員95名に対して、調査時点での利用児童数は88名であり、そのうち家庭数である74名の保護者を対象として、59名（80%）から回答があった。回答者は母が78%だった。
調査方法	経営層説明会及び職員説明会を開催し、園から調査対象保護者へ調査票一式を手渡しして貰った。糊付けした封筒に入れた調査票を園で集めて機関へ一括して送って貰い、集計・グラフ化して園へ報告した。

利用者総数	88
利用者家族総数（世帯）	74
共通評価項目による調査対象者数	74
共通評価項目による調査の有効回答者数	59
利用者家族総数に対する回答者割合（%）	79.7

利用者調査全体のコメント

「大変満足」が51%、「満足」が44%で合わせて95%と満足度は大変高い。その他、「どちらともいえない」が5%だった。自由記述には、「伝えたことが共有されてなかったり、連絡事項が遅いと感じることがある」「誕生日会に頂いたプレゼントがとても嬉しかった。友人からの絵は素晴らしい」「一言メッセージみたいなのがあると嬉しい」「門前が暗すぎるので、ライトが欲しい」「友達に手を出したが、状況を見ておらず子ども調べなことが数回あった」「アプリや、園のホームページなどで、日中の様子が分かるようになってほしい」「行事などの連絡が遅くて、仕事上困ることがある」「全てが素晴らしい」「大きなプールがあるが、入れる回数が少なく残念」「もう少し説明があってもいいのに…と思う。親の負担が多い」「相談にきちんとのってくださり、とても信頼できる」「保育士の皆様の給与等、待遇が、もっと良くなることを切々願います」「コロナ禍でも行事を工夫して開催してくださってる」「子どもが毎日楽しそうにしている」「先生が皆、優しい」等、記されていた。また、「子ども以外で要望を伝える機会がないので、毎年こうした調査で園に意見を伝えられると良い」と、記されていた。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	58	1	0	0
「はい」が98%、「どちらともいえない」が2%だった。設問項目には、「子ども一人ひとりに向き合ってくれています」「情緒的な発達を促され、優しい子が多く、あたたかい園であると感じています」「コロナで通わすのに戸惑いがあった」「保育園に通わせて頂き、成長を感じています」と、記されていた。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	56	2	0	1
「はい」が95%、「どちらともいえない」が3%、「無回答」が2%だった。設問項目には、「各部屋にピアノがあり、歌をたくさん教えてくれます。イベントも毎日楽しんでいます」「保育園でいろんなことが出来て楽しそうです」「毎日のように「今日楽しかった！！」と言って、笑顔で話してくれます」と、記されていた。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	54	5	0	0
「はい」が92%、「どちらともいえない」が9%だった。設問項目には、「肉・魚、等のたんぱく質をバランスよく使ってほしい。11月は魚料理が少なかった。もっと手作りのおやつが良い。完食していて味はとても美味しいと思う」「手作りおやつも提供され、子どものことを考えている」「とても美味しそう、栄養バランスもバッチリ、品数も十分。調理の方たちも、子どもに優しい」「家で調理しない食材でも「今日の給食、おいしかった！」と、良く工夫されている」「月2回、同じ内容で、もっとレパートリーがあればよいのに」と、記されていた。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	51	8	0	0
「はい」が86%、「どちらともいえない」が14%だった。設問項目には、「室内で遊ぶことが多いと感じる」「園庭が広く虫もたくさんいる」「園庭で毎日、自然を楽しみながら遊べる。反面、社会との関わりは少ないかもしれない」「コロナで、あまり社会や外部との交流はないが、先生方が工夫してくれている」「行事が多く、たくさんの体験ができてとてもありがたい」「自然が多く自然と触れ合う機会がたくさんあり、とても良い」「園庭のない保育園の方が公園に連れて行ってくれるのでは」と、記されていた。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	47	4	0	8
「はい」が80%、「どちらともいえない」が7%、「非該当」が14%だった。設問項目には、「延長保育がないので、利用時間変更はしないです。(日、祝、以外の)急な休日出勤に対応していただけると助かります。今は一週間前に申告が必要です」「残業や親の体調不良には、時間変更に対応してくれて、助かった」「ダブルワークが始まった時、土曜保育を快く対応してくれて、とても感謝しています」「もともと延長がない保育園なので、困ってはいません」と、記されていた。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	39	12	6	2
「はい」が66%、「どちらともいえない」が20%、「いいえ」が10%、「非該当」と「無回答」が各2%だった。設問項目には、「朝、職員同士の引き継ぎに集中し過ぎていて不安。目を合わせて預けたい」「門の鍵が重く、指を挟む可能性もあると思う。送迎時に、入り口に自転車が複数台とめられると、子どもと横を歩くのに危ないと思う」「送り迎えの開錠状態は、不審者が入ってこないか心配」「換気のため、窓を開けているが網戸がない為、危険を感じる」「夕方、門の近くに職員を配置してほしい」と、記されていた。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	43	12	4	0
「はい」が73%、「どちらともいえない」が20%、「いいえ」が7%だった。設問項目には、「親が参加する行事は、年間予定表などで早めに見通しが立つと仕事と調整しやすい」「コロナの影響もある中、工夫して行っている」「行事の詳細の案内が直前なので、もう少し早いとありがたい」「行事の日時(何時ごろ等)も、早めに教えていただけるとありがたい」「年間行事予定表が4月に配布されるので、予定が立ちやすいが、時間は直前(1週間前くらい)にならにとわからない」「入園式等、平日で困る」と、記されていた。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	50	7	2	0
「はい」が85%、「どちらともいえない」が12%、「いいえ」が3%だった。設問項目には、何も記されていなかった。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	47	8	4	0
「はい」が80%、「どちらともいえない」が14%、「いいえ」が7%だった。設問項目には、「室内に髪の毛や砂が落ちているのを見かける。子どもたちに雑巾がけをさせても良いと思う」「掃除が行き届いていないなと思うことがあり、衛生面が気になる」「子どもが遊ぶ空間の清掃が行き届いていないのでは…と思うことがある(埃が溜まってる)」「コロナ自粛要請の頃、久しぶりに登園したロッカーに埃が積もってた。先生方が清掃しているが、業者を入れた方が良い」「おもちゃの消毒をしているのか疑問」と、記されていた。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	50	9	0	0
「はい」が85%、「どちらともいえない」が15%だった。設問項目には、「服装が適切かどうかは、個人の自由だと思うので、この質問自体が不快です」「ほとんどの先生が適切ですが、ほんの数名、いつも怒っていたり、保護者への態度が悪い方もいます」「多くの先生の印象は良いですが、一部「〇〇君のお父さんは挨拶しなかったからダメね～」等、子どもに対して話しかけている先生がいると聞きました」と、記されていた。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	51	6	0	2
「はい」が86%、「どちらともいえない」が10%、「非該当」が3%だった。設問項目には、「こまめに体調の変化を伝えて下さるので、信頼している」「基本的にはケガの説明があるが、たまに気づかれないケガがある。トイレでおしっこをかけてしまい大泣きをしているのに気づかれなく、泣きながら一人でお着替えすること(1回)がありました」「小さいことでも報告してくださる印象です」と、記されていた。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	40	12	0	7
「はい」が68%、「どちらともいえない」が20%、「非該当」が12%だった。設問項目には、「そのような場面には、まだ直面していないのでわからない」と、記されていた。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	53	6	0	0
「はい」が90%、「どちらともいえない」が10%だった。設問項目には、「少し声かけが強い時もあるが、おおむね満足している」と、記されていた。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	47	6	0	6
「はい」が80%、「どちらともいえない」と「非該当」が各10%だった。設問項目には、何も記されていなかった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	48	11	0	0
「はい」が81%、「どちらともいえない」が19%だった。設問項目には、「もう少し保育園での様子を知りたいです(写真等)」「園のルールで、しおりで入園時にもらいます。が、特に厳守のことは、口頭説明してほしいです」「今は連絡帳があるので伝わっていますが、イベント等、お知らせが分かりにくい時があります」と、記されていた。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	45	9	0	5
「はい」が76%、「どちらともいえない」が15%、「非該当」が9%だった。設問項目には、「言っても伝わっていないことがある(先生同士での共有がされていない)」「担任の先生にお話しはしやすいです。対応をしてくれます。ベテランの先生は、少し言いづらい」と、記されていた。				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	23	9	6	21
「はい」が39%、「どちらともいえない」が15%、「いいえ」が10%、「非該当」が36%だった。設問項目には、「園からのお話は、なかったように思います」と、記されていた。				

Ⅰ 組織マネジメント項目（カテゴリー1～5、7）

No.	共通評価項目
1	カテゴリー1 リーダーシップと意思決定

サブカテゴリー1（1-1）

事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7／7

評価項目1
事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）を周知している

評点（○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当
◉あり ○なし	2. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○非該当

評価項目2
経営層（運営管理者含む）は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている

評点（○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○非該当
◉あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○非該当

評価項目3
重要な案件について、経営層（運営管理者含む）は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している

評点（○○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○非該当
◉あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○非該当
◉あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○非該当

カテゴリー1の講評

理念・基本方針を周知している

園は1951年に宗教法人の運営で創設され、仏教寺院の樹林に囲まれる恵まれた環境に立地している。理念と基本方針を事業計画書・保育士マニュアル（手帳サイズ・ファイル31頁）・ホームページに明示し、職員室に掲示している。保育士マニュアルは全職員が持ち、職員会議で読み合わせるなどで周知している。また、自己啓発用に「月刊仏教保育カリキュラム（A4版24頁）」を全職員へ配布している。保護者へは、入園時の「園のしおり」や毎月発行の園報「いまいずみ」で伝え、年2回の保護者会でも説明している。

園長は自らの役割と責任に基づき、各職員が取り組むべき職務と方向性を明示している

経営層をはじめとする全職員の職務・役割を職務分担表に明記している。寺の住職が園長を務め、保育現場は保育主任（以下主任という）が中心になって園長と協働して運営にあたっている。園長は年度初めに役職員へ「職務任命書」を渡し、取り組むべき職務と方向性を提示・確認している。職員一人ひとりが目標を共有し、率先垂範し、同僚を支援し、真摯に職務に取り組んでいる。

意思決定の手順が明確で、重要案件は主任会議と職員会議で検討・決定している

運営及び役職員各自の役割分担は、年度事業計画書において職員配置基準・職務分担・クラス編成・研修計画・年間行事予定などが具体的に定められている。クラスや行事の担当保育士から活発に出された提案は、主任会議（メンバーは園長・主任・副主任2名・副主任補1名）で検討し、職員会議において決定を行い、併せて、その内容と決定経緯を周知している。経営層と職員及び職員相互の意思疎通と連携が円滑に進められている。

	カテゴリー2
2	事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行

サブカテゴリー1（2-1）

事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6／6

評価項目1
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している

評点（○○○○○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
◉あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
◉あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
◉あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向（行政や業界などの動き）について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
◉あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
◉あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当

サブカテゴリー2（2-2）

実践的な計画策定に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5／5

評価項目1
事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している

評点（○○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
◉あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
◉あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当

評価項目2
着実な計画の実行に取り組んでいる

評点（○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた、計画の推進方法（体制、職員の役割や活動内容など）、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
◉あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し（半期・月単位など）、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当

カテゴリー2の講評

保護者の意向を多様な方法で把握し、迅速に対応している

登降園時に、担任や周りの職員が口頭で子どもの様子を聞いたり伝えたりしながら、保護者の気になることを聞き取っている。また、個人面談や保護者会、さらに、運営審議委員会(メンバーは園長・主任・副主任・保護者代表・町会長・民生委員・第三者委員)でも率直に話し合い、保護者の意向についての情報収集とニーズを把握し、組織的かつ迅速な対応を行っている。

地域福祉の現状や福祉事業全体の動向について、情報収集・課題・ニーズを把握している

園は、都民間保育園協会・日本仏教保育協会・浄土宗保育協会・地域保育連絡会、等に加入している。相互の情報交換や地域の保育ニーズの共有を図るとともに、地域の保育事情や保育をめぐる様々な情報を収集し、状況の把握・分析を行っている。また、行政機関・事業団体などから提供される各種情報に加え、新聞・専門誌・ネットからも情報を収集している。これらを参考として、園経営の課題抽出や今後の方向性を考えている。

施設整備・研修・行事などの計画が明確に作成されている

年度計画において、災害時備蓄品及び災害用発電機の確保・園庭及び園舎の整備・職務分担表・児童と職員の健康管理・職員研修・行事予定(保護者会・保育参観・個人面談を含む)などの各種計画が明確に定められている。計画の細目は担当チームによって決められ、責任者とメンバーによって実施される。推進にあたって進捗状況が園長・主任へ詳しく報告され、要点が職員会議で発表される。また、保護者会や行事の予定等は園だよりで保護者へ伝えられている。

カテゴリー3

3 経営における社会的責任

サブカテゴリー1(3-1)

社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 2／2

評価項目1
社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる

評点(○○)

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○非該当
◉あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。	○非該当

サブカテゴリー2(3-2)

利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4／4

評価項目1
利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている

評点(○○)

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
◉あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当

評価項目2
虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている

評点(○○)

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
◉あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当

サブカテゴリー3(3-3)

地域の福祉に役立つ取り組みを行っている

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5／5

評価項目1
透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる

評点(○○)

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
◉あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当

評価項目2
地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている

評点(○○○)

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
◉あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
◉あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

カテゴリー3の講評

会議や研修で守るべき法・規範・倫理を周知し、遵守されるように取り組んでいる

職員会議や研修で、児童憲章の理念と児童福祉法が定める保育をめぐる規範と倫理の周知を図っている。さらに、遵守が掛け声だけで終らぬように、職員心得・就業規則・保育マニュアルなどによって具体的な実践方法を定めており、OJTと研修によって定めたルールによる保育活動が進む体制も整備している。また、年間指導計画の保育士の自己評価欄に「子どもの言葉にならない思いやサインなどの心の動きを理解するように努めているか」を設け、遵守の確認を行っている。

利用者の意見・要望・苦情を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている

苦情解決制度として苦情解決方針を定めたマニュアルを整備し、苦情解決のプロセスを明確にしている。保護者から相談を受けた職員は、自らのノートに日時と相手の話したこと及びこちらが答えたことを詳細に記録することを励行している。自分での対応が難しい場合は、副主任及び主任へ直ちに引き継いでいる。保護者へは、苦情解決制度について入園時に重要事項説明書で説明し、園外の第三者委員へいつでも申し立てができることを入園のしおりや掲示板に明示して伝えている。

虐待に対し、組織的な防止対策を立てている

虐待防止には虐待防止マニュアルを整備し、職員会議を中心に組織的な防止対策を日頃から話し合っている。会議では、職員の言動が子どもの心を傷つけないように、子どもを叱る場合に乱暴な言葉を使っていないかを自問自答するように指導している。また、保育士が大声で子どもを叱っているときは、主任が中に入って双方を落ち着かせている。一方、家庭で虐待を受けていないかは、朝の視診で姿・行動の違いを、着替え時に肌に異常ないかを確認している。虐待の事実を把握した際には、虐待防止マニュアルに沿って関係機関へ通報することとなっている。

4	カテゴリー4
	リスクマネジメント

サブカテゴリー1（4-1）

リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 **5／5**

評価項目1
事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる

評点（○○○○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク（事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など）を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
◉あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
◉あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画（BCP）を策定している	○非該当
◉あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
◉あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当

サブカテゴリー2（4-2）

事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 **4／4**

評価項目1
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている

評点（○○○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員（実習生やボランティアを含む）が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
◉あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
◉あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
◉あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当

カテゴリー4の講評

子どもの安全管理に園をあげて取り組んでいる

樹木に囲まれた園庭を有する園は「外遊び」の重視を基本方針としているが、一方、怪我を負う危険性が増大する。その対策として、園や他園における過去の事故事例を収集・検討し、予防策と発生時対応策をまとめた事故発生防止マニュアル及び保育士マニュアルを作成している。また、消防署の指導による屋上への避難訓練・地震時園児引き渡し訓練・侵入者からの避難訓練へは全職員が参加し、子どもの安全対策を園の最重要課題の一つとして取り組んでいる。

災害と感染症リスクに対策を講じている

災害時対策については、災害時に宿直可能な職員を決め、職務任命書を発行している。宿直に伴う手当てを就業規則に記載し、宿直に必要な用具・食事を用意している。また、設備面では太陽光発電を東電へ売電し、一部を蓄電して夜間に自己消費している。感染症防止対策については、感染症の恐れがある子どもを通園させないことを保護者の理解・協力を得て徹底している。職員へは状況に合わせた柔軟な対応を行うよう周知している。今後、詳細に策定されたBCPの実効性を高めることに期待したい。

情報の管理と活用を適切に行っている

園で把握・保護・共有するPC内の情報について、職員が共有するものと共有を制限するものとに分けている。経営上で重要かつ機密性の高い情報は、取扱者の特定及びパスワードによるアクセス権限を設定している。また、紙ベースである経理・人事関係書類や利用者の個人情報を含む文書・契約書は、保管キャビネットの施錠による管理を徹底している。今後、保育現場のPC化のさらなる推進を計画しているが、着実な実行を期待したい。

カテゴリー5	
5	職員と組織の能力向上

サブカテゴリー1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	9／12

評価項目1
事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている

評点(○○)

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
◉あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当

評価項目2
事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している

評点(○○)

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
◉あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当

評価項目3
事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる

評点(○○●●)

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
○あり ◉なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
○あり ◉なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
◉あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当

評価項目4
職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる

評点(○○○●)

評価	標準項目	
○あり ◉なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
◉あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
◉あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
◉あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当

サブカテゴリー2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	3／3

評価項目1
組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる

評点(○○○)

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
◉あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
◉あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

カテゴリー5の講評

保育士・栄養士の専門職で構成された職員集団をリーダー層がまとめている

園は、仏教保育に基づく理念・基本方針を全職員へ周知し、新卒者へは体験実習の際に伝えている。常勤・非常勤職員はすべて有資格者であり、給食には調理師と栄養士が園内の厨房で完全調理している。園長のもと、いずれも経験豊富な主任・副主任・副主任補がリーダー層を形成し、円滑に業務が進められている。また、前年度の常勤・非常勤職員の退職者がゼロであり、就業状況が安定している。

外部研修やオンライン研修の積極的な実施により、成果の共有に取り組んでいる

外部研修とオンライン研修を幅広く活用し、全職員に受講機会を設けている。各種仏教保育協会や民間保育園協会の研修・勉強会へ積極的に参加し、専門知識の習得に努めている。成果の一例として、園内の情報管理についてパソコン化が進み、職員が記録の作成や整理に過剰な負担を負うケースが少なくなった。また、各職員が学んだ研修内容をレポートの発表を通じて共有するとともに、日頃の気づきや工夫について互いに話し合い、サービスの向上や業務改善に活かしている。

就業状況を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる

勤務時間や休暇取得に関して、2名の副主任が管理を担当し、データに基づいて各職員の平等な取得を図っている。前月の実績を基に各職員が翌月の勤務体制を作成するため、職員に不満が生じない。さらに、各職員の家庭環境に配慮し、勤務時間短縮や急な休みにも応じている。一方、主任がストレスチェックに十分配慮し、職場環境・健康・ストレスの把握と改善に取り組んでいる。今後も保育の質の向上や業務改善のために、各職員が日頃の気づきや工夫を互いに話し合い、合意形成を図って提案が出されることに期待したい。

	カテゴリー7
7	事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1（7-1）
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1
事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている（その1）

前年度の重要課題に対する組織的な活動（評価機関によるまとめ）

【課題・目標】
3つの目標達成に努める。①生命尊重の保育（明るく）②正しきを見て絶えず進む保育（正しく）③良き社会人を作る保育（なかよく）。

【課題を抽出した理由・背景】
園児の主体的活動を促し、豊かな情操を養うため。

【取り組み】
1歳～5歳まで「健康な心と体」など10項目の年間指導計画を実行した。

目標の設定と取り組み	◉ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	◉ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった（目標設定を行っていなかった場合も含む） ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	◉ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

【取り組みの結果】
1歳児：自分でできたという喜びや満足感を得るようになった。また、頑張りを認め、自分でできたという喜びに共感することで次への意欲に繋がった。
2歳児：身の回りのことが習慣化し、スムーズにできるようになった。
3歳児：友達と遊んだり話したり歌ったりすることを喜び、一緒に活動するようになった。
4歳児：友達と協力して表現することを楽しみ、達成感や満足感を味わえるようになった。
5歳児：年長児としての自覚を持ち、様々な活動に取り組めるようになった。

【振り返り（検証）・今後の方向性】
子ども達への補助はほぼ目標達成できた。しかし、他クラスやフリー保育士との協調・後輩指導・同僚への支援が十分でなかった。今後も子どもとの触れ合いがおろそかにならないよう、職員の負担に配慮しながら保育士間の連携強化に取り組んでいく。

【講評】
今後の方向性（保育士間の連携強化）に沿って目標達成や課題解決に向け、チームでの活動がいっそう効果的に進むことに期待する。

評価項目2
事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている（その2）

前年度の重要課題に対する組織的な活動（評価機関によるまとめ）

【課題・目標】
明るく・正しく・和よくに対し、異年齢と関わりを持ち優しい心を育み、友達とのつながりを深め、お互いの思いを伝えながら行動し、自分の力を十分発揮して運動遊びに取り組む。また、自然環境にも興味を持ち食物に触れ、虫等の観察を行い、愛情を持って接する心を養う。

【課題を抽出した理由・背景】
団体生活でのルールを自分たちで決め、個性を十分発揮し、自然に対して愛情を持った接し方ができる人間になってほしい。

【取り組み】
保育士が遊びや活動において満足感や自信が持てるよう補助をしたり、遊び込んでいるときは声掛け・水分補給・衣服調整に配慮した。また、自分の言いたいことを相手に分かりやすく伝える訓練を保育士が手本となって見せ、団体生活では全てを主張するのでなく、相手との協調・調和を図る訓練（物の貸し借りやケンカの起きない方法）を保育士が教えた。

目標の設定と取り組み	◉ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	◉ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった（目標設定を行っていなかった場合も含む） ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	◉ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

【取り組みの結果】
生命情緒：各自が興味のある事を探し、毎日の水やりで植物に触れ、虫の行動観察や落ち葉の収集で自然から生命情緒を学んだ。
教育：コロナ禍で換気優先であったため、寒い時は体を動かし、暑い時は我慢するなど、自然が良い環境ばかりではないことも体験できた。
言葉の発達：：好きなものについて皆の前でお話しできる場を作った結果、自分の考えを主張できる子が増えた。
食育：子どもたちが水やりをした野菜を収穫し食材への感謝の気持ちを持ち、食べることの喜びを持つことができた。

【振り返り（検証）・今後の方向性】
今後は、保育士への負担をあまりかけずに、子どもたちとの触れ合いが深まる目標設定を引き続き検討したい。

【講評】
一連のPDOAサイクルで、一定の効果が得られて、次年度への新たな目標設定へと繋がったことは大きな成果である。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目（カテゴリー6-1～3、6-5～6）

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	4／4
	評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している	評点（○○○○）	
	評価	標準項目	
	◉あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
	◉あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	○非該当
	◉あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当
	◉あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当

サブカテゴリー1の講評

区のホームページ等に園の情報を掲載しているが、さらなる情報発信が期待される

区のホームページやガイド誌へ、施設概要・保育目標・年間行事などを掲載している。ホームページでは、仏教保育の基盤を持つ歴史のある園であることを紹介し、入園案内・保育内容・給食・保育支援事業などを詳細に説明している。しかしながら、そのホームページでは園についての所在地・連絡先・休日を掲載するだけの内容となっており、利用希望者への情報提供については、さらなる検討が期待される。また、WEBの施設情報サイトでも広く園の情報を発信している。

コロナ禍でも、工夫して見学会を開催している

コロナ禍による感染防止対策のために入園制限を行っており、園内をラウンドする形での見学対応ができない状況である。直接足を運んで見学を希望する場合は、園庭をはさんだ講堂で見学会を行っている。見学に際しては、15人ほどのグループに分け、講堂から園庭で遊ぶ園児の姿を見てもらっている。「入園のしおり」を手渡し、主任或いは副主任が園内の写真をプロジェクターを使用して紹介しながら1時間ほどの説明を行い、見学希望者からの質問にも丁寧に応じている。

「パートナー保育登録制度」を設け、地域の利用希望者へ園を紹介している

出産前後や在宅子育ての家庭へ向けて、「パートナー保育登録制度」を設けている。見学希望者が登録をしたり、未入園児の保護者が児童館等で、人伝てに聞いて申し込みをするなど、現在、登録は20名を超えている。登録者へは移動動物園・運動会・給食試食会などの行事案内を送付している。コロナ禍のため中止となっている行事もあるが、開催時には園児らと共に交流を図る姿が見られている。また、保育所体験や育児・食事相談も受けており、利用希望者の支援とともに、園の紹介を行っている。

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6／6

評価項目1
サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている

評点（○○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○非該当
◉あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
◉あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当

評価項目2
サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている

評点（○○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
◉あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
◉あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○非該当

サブカテゴリー2の講評

入園前のオリエンテーションで重要事項の説明を行い、同意を得ている

入園が決定すると、保護者へ「入園のしおり」「児童票」「児童調査票」などの資料一式を手渡し、事前に目を通してもらっている。「入園のしおり」には、行事予定・1日の流れ・健康管理・準備する物など、基本的なルールについて詳細に記載されている。また、入園前に園長・主任による個別面談があり、子どもの状況や保護者の意向を確認している。3月末に開催されるオリエンテーションでは、重要事項の説明及び質疑応答と各クラス別の説明会が行われ、確認内容をまとめた「重要事項確認同意書」で各項目について保護者からの同意を得ている。

入園前の情報を職員間で共有し、その後の支援に活かしている

入園にあたり、保護者からアレルギー等による除去食材の希望や疾患・健康面・発達面等の気になる点について聞き取り、「食物摂取状況表」などで子どもの情報を確認している。個別面談の際には、「児童票」「園児調査票」に沿って病歴・食事・排泄・睡眠状況を確認し、保護者の意向などを把握・記録している。これらの子どもや保護者に関する情報は、朝の申し送りやミーティングなどで職員全体での共有を図っており、子ども一人ひとりの特性や生活リズムの丁寧な把握によって、その後の支援に活かしている。

卒園後もクラス会の開催や運動会への参加を呼びかけるなど、支援の継続性に努めている

園では、卒園して1年目の子どもを対象にクラス会を開催している。ほぼすべての卒園児が参加し、旧担任の職員とともにゲームで遊んだりおやつを食べるなど交流を深めている。また、新卒園児に年賀状を送り、卒園後の3年間は招待はがきによって運動会への参加を呼びかけている。今年度の運動会には60名ほどの卒園児が参加し、特別に用意された綱引きの競技などで楽しいひと時を過ごしている。卒園後の支援の継続性に配慮しており、小学生になった子ども達が気軽に園に立ち寄り、一緒に遊ぶ姿が見られている。

	サブカテゴリー3		
3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	12／12

評価項目1
定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点(○○○)

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
◉あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
◉あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当

評価項目2
全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している

評点(○○○○○)

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
◉あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている	○非該当
◉あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
◉あり ○なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
◉あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直している	○非該当

評価項目3
子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点(○○)

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
◉あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当

評価項目4
子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(○○)

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
◉あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○非該当

	サブカテゴリー3の講評
	子どもの心身状況や生活状況を確認し、「保育日誌」「連絡帳」などに記録している 園では、子ども一人ひとりの心身状況や生活状況を「保育日誌」や「連絡帳」などの書式に記録し、情報を把握している。「連絡帳」には、園での子どもの様子が詳細に記載され、保護者が家庭での様子や留意点などを記載している。「保育日誌」「児童票」等はパソコン入力しており、操作が苦手な職員へは個別に研修できる体制を整えている。今年度からはクラスに1台ずつパソコンを設置しており、職員からは「記録する作業をスムーズに進めることができている」との意見も挙がっている。 **子どもの様子を踏まえた指導計画を基に、クラス担任が月案・週案・日案作成している** 全体的な計画に基づき、各年齢ごとの年間指導計画を立案している。計画書には、養護・教育・食育の項目を設けて保育内容を具体的に記載し、より子どもの姿を反映できるように図っている。全体的な計画は主任が作成し、園長が確認後に職員会議で決定されている。全体的な計画を基に各クラスごとの担任が年間指導計画及び月案・週案・日案を作成し、園長と主任が最終確認を行っている。年間指導計画は年度ごとに反省・評価を行い、次の計画に繋げている。 **朝礼や「申し送りノート」などの記録で、子どもや保護者の情報を共有している** 毎日10分～15分かけて朝礼を行っている。朝礼には、ローテーションにより参加できない職員以外、すべての職員が出席することになっており、その日の保育に必要な子どもの情報や業務連絡などの情報共有を図っている。また、全職員が出勤時に必ず「申し送りノート」に目を通す規則になっている。さらにパソコン上の共有ソフトで、行事などの情報を随時確認することができる。子どもや保護者に関する情報は、受けた職員が漏れのないように責任を持って周知するように努めている。

5	サブカテゴリー5		
	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5／5

評価項目1
子どものプライバシー保護を徹底している

評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 子どもに関する情報（事項）を外部とやりとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当
◉あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○非該当

評価項目2
サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している

評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当
◉あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○非該当
◉あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当

サブカテゴリー5の講評

子どものプライバシー保護を徹底し、保護者へも詳しく説明を行っている

入園時の面接で保護者へ個人情報の取り扱いについて詳しく説明を行ない、同意を得ている。「個人情報の取得に関する同意書」には個人情報の使用目的・第三者への提供・開示・安全管理など、各項目ごとの内容が詳しく記載されている。例えば、保育中に撮影した子どもの写真や動画を外部へ提供する際は、うしろ姿のみで、正面からの顔写真は不可とし、また、突然の取材には応じことなどが明記されている。一方、職員からは「秘密保持誓約書」を得るなど、個人情報保護の徹底に努めている。

保護者の意向を把握して、一人ひとりの子どもを尊重しながら支援を行っている

入園前の個別面談や送迎時の保護者との会話などから、各家庭の意向を把握している。園は「仏教保育三要綱」を基盤としており、保育方針を無理に勧めるのではなく、可能な範囲で各保護者の価値観や生活習慣を尊重した支援に努めている。例えば、宗教上の食材制限がある外国籍の子どもの食事にも配慮している。また、一人ひとりの子どもの様子や発達課題については、各種の記録や職員会議によって情報を共有しながら、それぞれの状況に応じた支援を行っている。

虐待防止への理解を深めるために研修を行っているが、さらなる取り組みに期待したい

登園や着替え時に視診によるチェックを行うなど、気になる子どもについては、園長・主任・担任が連携して対応し、区の子ども家庭支援センターと情報共有を図っている。また、マニュアルを整備して全職員へ配布し、虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて共通理解を深めている。園ではこれまでに虐待防止対応の例がなく、注意喚起を促すために職員会議等で問題提起や勉強会を行っているが、時代のニーズを鑑みると、研修の場をさらに増やす必要を感じている。職員自身の気づきを促す「チェックシート」の活用などの検討を今後に期待したい。

6	サブカテゴリー6		
	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5／5

評価項目1
手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
◉あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○非該当
◉あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当

評価項目2
サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
◉あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当

サブカテゴリー6の講評

各種のマニュアルを整備し、必要に応じて確認できる仕組みを整えている

園では保育サービスの基本的事項や手順を明確にするため、「事故発生防止マニュアル」「接遇マナーマニュアル」「虐待防止マニュアル」などの各種マニュアルや手順書を整備し、職員への周知を図っている。長い歴史のある園であり、作成年度の古いものが多く更新が必要であったため、数年かけて積極的に見直しに取り組んでおり、事務室等に常備するとともに、今年度から全ての職員がパソコン内のシステムによって業務手順の確認や業務点検の手段として活用できる仕組みが整えられ、業務の標準化に活かされている。

マニュアルの見直しには、職員の気づきや提案を取り入れている

主に年度末の職員会議などでマニュアル類の見直しが行われているが、業務上で必要と考えられた場合には、随時、改定について検討がなされている。職員会議では日々の保育業務の中での職員の気づきや提案をできるだけ取り入れ、改善に繋げている。また、業務内容の振り返りを行い、子どもの状況や制度などを勘案し、現状に即した内容となるよう留意している。見直しや修正が行われた時は、マニュアルや手順書に変更年月日と改定内容を記載し、全職員への周知を図っている。

Ⅲ サービスの実施項目（カテゴリー6-4）

	サブカテゴリー4		
	サービスの実施項目	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	35／35

1 評価項目1
子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている

評点（○○○○○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○非該当
◉あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○非該当
◉あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○非該当
◉あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども（障害のある子どもを含む）の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当
◉あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル（けんか・かみつき等）に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○非該当
◉あり ○なし	6.【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○非該当

評価項目1の講評

子どもたち一人ひとりの把握に努め、主体性を引き出す保育を行っている

入園時の個別面談で、保護者から子どもの生活状況や健康状態を聞き取り記録している。入園後も園での子どもの状況を、乳児（1・2歳）は毎日の連絡帳に、幼児（3・4・5歳）は必要に応じて連絡ノートに記載され、各保育日誌や申し送りノートにも記録されている。これらの子どもの日々の状況は、乳児は毎月、幼児は3ヵ月に1度の発達の記録として記され、保育に携わる職員は子ども達の状況を個別に把握し、それぞれの子どもに合わせた対応によって遊びや活動から一人ひとりの主体性を引き出す支援を行っている。

仏教保育の理念のもとに、相互に尊重し合う心を育んでいる

仏教保育の理念として、「明るく・正しく・和（なか）よく」を掲げており、園での日常生活において子どもたちが相互に尊重し合う心を育てることを、何より大切にしている。園内の各部屋は、広くゆったりとした空間が確保されており、子どもたちが思い思いの遊びを創り出せるように、それぞれのコーナーが設けられている。また、園庭は樹齢何十年もの木々が聳え立ち、子どもたちの元気な遊びを見守っている。さらに、保育に関わる職員は、日常生活及び行事やイベントなどの準備段階から、子どもが主体的に参加できる環境づくりに努めている。

子どもが自身の言葉で気持ちを伝えるよう支援を行い、子ども同士の理解を深めている

園の保育理念を具体化するための一環として、子どもが自身の言葉で気持ちを伝えられるように、保育士が手本を見せて子どもたちに教える取り組みを始めている。自分の思いを相手に伝えるためには相手にわかる言葉で話せるようになること、また、相手がどう受け止めたかを考えて相手の気持ちを思いやるすべを学ぶこと、これらを少しずつ会得して行くことで、自分と他者との関係性に気づき、相互理解を深めて尊重する心を育てている。一方、配慮の必要な子どもに対しては保護者と相談の上で、凝視や専門機関との連携を図っている。

2 評価項目2
子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている

評点（○○○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
◉あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
◉あり ○なし	3. 休息（昼寝を含む）の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
◉あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当

評価項目2の講評

登・降園時には、保護者と子どもの情報を共有できるように努めている

登園時は、担当保育士が保護者から家庭での子どもの様子及びその日の健康状況を確認している。保護者からの情報は、申し送りノートに記載されるとともに、朝礼で職員間の情報共有を図っている。降園時は、担当保育士が保護者へその日の子どもの様子を伝えることとしているが、保護者の就労状況や職員のローテーションなど、担任から直接保護者への連絡が難しいこともあるため、ローテーションの作成に配慮したり、1・2歳児は毎日の連絡帳で報告し、幼児クラスはクラスごとのホワイトボードでその日の活動を保護者へ伝えている。

基本的な生活習慣を身に付けることは、各家庭と相談しながら進めている

入園時面接では各家庭の状況や意向を聞き取っており、排泄のトイレトレーニングに関しては、家庭での状況に配慮して保護者と相談しながら、短時間のおむつ外しから始め、徐々に時間を長くしている。また、離乳食から普通食への移行や箸の使用の開始なども、保護者と相談しながら調理担当職員も加えて進めている。食事や排泄などの生活習慣を身に付けることにに関しては、常に家庭の意向を尊重し、保護者と相談しながら子どもに無理が無いかを確認しつつ丁寧に進めている。

休息は、それぞれの子どものその日の状況に合わせて行っている

それぞれの子どもによる違いはあるが、園は個々の子どもの発達状況に合わせた休息をこころがけている。1・2歳児は、連絡ノートや朝の受け入れで家庭での睡眠状況を聞き取り、その日の午睡の時間に反映させるとともに、午睡中も子どもの様子をしっかりと観察して午睡チェックを行っている。さらに、幼児クラスでも午睡中の子どもの状況を観察し、保育日誌に記録している。また、家庭の状況やその日の子どもの体調などにより、午睡の長さは配慮されている。なお、年長児は、12月頃からの就学に向けた活動に応じて、午睡をしない日を設けている。

3 評価項目3
日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点（○○○○○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
◉あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
◉あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
◉あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
◉あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
◉あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当

評価項目3の講評

子どもが自主性・自発性を発揮できる、専門講師による多様なプログラムを用意している

幼児クラスの活動プログラムは、専門講師によって毎月2回のリトミック・毎月1～2回の絵画・1～5歳児ごとに週1回の体操など、豊かな活動プログラムが展開されている。様々な活動の経験によって個々の子どもの興味を引き出し、楽しさや意欲に繋げている。専門講師や保育士は、子どものやりたい気持ちを大切にして、自主性や自発性を尊重している。また、園では12月のお遊戯会や2月～3月の音楽会・リトミックの発表会など、子どもたちが成果を示せる機会も設けている

季節の移り変わりを実感できる園庭で、子どもたちは体幹を鍛えている

広い園庭には多くの樹木が植えられており、春の木の芽の息吹や夏の木陰、秋の紅葉や落葉など、四季折々に自然が感じられる都会には珍しいほど恵まれた環境であり、ダンゴムシやセミの抜け殻など、虫や生き物も豊富に存在し、子どもたちは日常的に自然を感じて生活している。夏は、常設のプールがあり、人工芝や温水設備も整っており、水遊びを満喫できている。近隣の住民も暖かく子どもの育ちを見守っており、何より、走り回ることのできる広い園庭が子どもたちの体幹を鍛えている。

集団での日常生活で、子ども自身が約束事の大切さに気付く力を育てている

園の全体計画に基づいて、クラスごとの年間指導計画・月案・週案・デイリープログラムと流れに沿った子どもの発達を支援する保育が行われている。園での日常生活で、乳児クラスも幼児クラスもそれぞれに自分たちの遊びを日々創り出している。また、仏教保育の精神に則って、子どもたちは自分と相手を大切にすることや決まりごとを守ることなども、遊びや日常の活動を通して学んでいる。さらに、樹木に囲まれた広い園庭で、自然の移り変わりを肌で感じて、のびのびと育っている。

4 評価項目4
日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している

評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
◉あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
◉あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当

評価項目4の講評

子どもたちの日常生活を彩る、仏教行事も交えた年間行事が豊かに展開されている

園では年間を通して、入園式・花まつり・お施餓鬼・親子バス遠足・七夕まつり・お地蔵祭り・芋ほり遠足・お十夜・多摩川土手遠足・ふれあい動物邑・おゆうぎ会・餅つき・節分・涅槃会・人形劇・公開リトミック・お店屋さんごっこ・ひな祭り・お別れ会・卒園式・修了式、などの仏教行事も交えた季節行事が多彩に展開されている。親子バス遠足を中止として、芋ほり遠足を保護者参加とするなどの工夫を重ねて、コロナ禍でも子どもたちの日常生活を彩る行事を継続している。さらに、年2回のバイキング・毎月のお誕生会・季節の行事食などの楽しみも多い。

子どもたちが協力して達成感を味わえる行事の企画・実践に、職員は取り組んでいる

子どもたちの豊かな情操に資するを、多彩な行事を展開するために、職員は一丸となって行事の企画・実践に取り組んでいる。職員は企画段階から、子どもの意見を聞いて行事に組み入れ、行事で子どもに役割を担ってもらうことで、達成感を味わうとともに、皆で一緒に協力して成し遂げた喜びを実感してもらいたいと努めている。職員からは、行事の数の多さに対して職員数が少ないという声や、新たな行事に取り組むゆとりが無いとの声も聞かれる。職員間での行事の見直しも検討課題かと思われる。

保護者からの理解と協力を得て、行事実施を行っている

園には「保護者の会」があり、運動会への積極的手伝いや人形劇を主催して園のサポートに努めている。しかし、保護者の働き方は年々多様性を深めており、園へのサポートというより園行事への参加も難しい保護者がいることも利用者調査からは伺える。出来るだけ多くの保護者の理解と協力を得るためには、行事・イベントへの参加及び日常保育の様子を見て貰うことなどが何より効果的である。園は、保護者の就労状況に寄り添い配慮しつつ、行事参加など保護者への協力依頼を丁寧に行っている。

5 評価項目5
保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている

評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
◉あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当

評価項目5の講評

滞在時間の長い子どもたちが、しっかり休息できるように配慮されている

園の開園時間は7時半から6時半までであるが、一人ひとりの子どもによって個別性はあるものの、滞在時間の長い子どもたちが適切な休息を取れるように配慮している。乳児クラスの子どもたちは、午睡前の午前中に園庭で外遊びを楽しんでおり、午睡後は落ち着いた室内遊びへと移行している。また、幼児クラスの子どもたちは日中は広い園庭で、自分の体を使って体感を鍛えるなど体を動かして存分に遊び込める環境があり、午後も引き続きの外遊びに加えて、リトミック・絵画など落ち着いて集中できるプログラムも用意されている。

早朝や夕方の時間帯を、子どもたちは異年齢の集団活動で楽しんでいる

合同による異年齢の集団活動が早朝や夕方に行われている。午前中・午後と午睡を除くほぼ一日を、子どもたちはクラスごとの時間帯に分けられた広い園庭で、暗くなるまで自由に走り回っている。暗くなるのが早い冬の夕方などは、お迎えの時間まで室内で異年齢で過ごすことも多く、年少児が年長児の遊びを真似したり、年長児が年少児の世話をする姿も見られる。日頃の保育でも、他のクラスの子どもたちと一緒に遊ぶことも多いため、異年齢での集団活動が自然に行われている。

6 評価項目6
子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している

評点（○○○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
◉あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
◉あり ○なし	3. 子どもの体調（食物アレルギーを含む）や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
◉あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み（食材の栽培や子どもの調理活動等）を行っている	○非該当

評価項目6の講評

子どもたちが楽しく落ち着いて食事が摂れる環境作りに努めている

幼児は給食の当番活動によって、食事の配膳などを行っている。食事の前には皆で歌って「ののさま」に手を合わせるなど、感謝の気持ちを表している。食事が子どもたちにとって楽しいものであるように、それぞれに応じた食事量や美味しく食べているかなどを栄養士が確認している。また、誕生会や行事食メニューには、子どもの希望が反映されるよう図っている。アレルギー対応としては、保護者から指導書を提出してもらい、栄養士が個別の献立を作成するとともに、個別のトレイを用いて間違いの無いように配慮している。

献立表にはおやつも含めて材料・栄養価が記され、月次目標も示されている

園の月次献立表には、献立名・材料名・10時と3時のおやつ・栄養価が記されており、それぞれの食材は体の成長にどのように役立つかも記されている。園では、系列園と共に月次で給食会議を、園長・副園長・両園の主任と栄養士の計6名で開催し、年間食育計画を策定し、食育計画に基づいた月次献立表や食への関心を高める取り組みについて検討している。今回の利用者調査でも食事への評価は92%と高く、保護者からは、「美味しそう」「よく考えられた献立」「子どもが完食している」との好意的な意見が記されていた。

「食育の目標と全体計画」を作成し、食への関心を高める取り組みを行っている

年齢ごとの食育の年間指導計画は、系列園との合同給食会議で策定された年間食育計画に基づいている。その後、園では2名の栄養士が中心となり、保育士と一緒に子どもたちの食への関心を引き出すための取り組みを行っている。今年度も、ナス・キューリ・ピーマン・ミニトマトなどの夏野菜を育てて、子どもたちの希望を取り入れ、収穫後にピザを厨房で作って食べている。苗を植えるところから始めて、水やり・雑草取りなどを得て収穫する喜びや食べる恵みを子どもたちは味わっている。さらに、年長児は調理保育も行っており、様々な食材にも触れている。

7 評価項目7
子どもが心身の健康を維持できるよう援助している

評点（○○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
◉あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
◉あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み（乳幼児突然死症候群の予防を含む）を行っている	○非該当

評価項目7の講評

子ども自身が健康や安全に関心を持つよう、日常保育で注意を促している

区が月次発行する「健やか子育てだより」を保護者へ配布している。「健やか子育てだより」には、今月のテーマとして、健康や安全に関わるお役立ち情報が掲載され、区の感染情報や子育て情報（健康に関する講演会・散歩に適したひろばや公園など）も掲載されている。さらに、簡単な健康チェックシートなども掲載されており、園や家庭でも活用できるものである。園は、子ども自身が健康・安全についての知識を得て自分の身を守ることを大事と捉え、日常保育場面での注意や情報提供に力を入れている。

月次の身体測定に加えて、園医・歯科医による定期的な健康診断が行われている

子どもたちの健康管理は園医・歯科医と保健・衛生・安全の担当職員を中心に行われている。子どもたちの身体測定は毎月行われ記録されており、内科検診は5月と10月の年2回、歯科検診も6月と11月に行われ、蟯虫検査も年1回行われている。また、朝の受け渡し時には担当職員が視診によって、子どもの健康状態を確認して、申し送りノートに記録している。原則として薬は預からないが、必要が生じた場合は「依頼与薬書」を得た上で、園医と相談しながら対応している。

子どもの健康・安全を守るため、保護者への情報提供や職員間の情報共有に努めている

コロナ禍もあり、感染症防止対策には力を入れている。事故発生防止マニュアルや災害・感染症におけるBCP（事業継続計画）も策定されている。毎月の避難訓練も含めて、日常保育で健康・安全を守るための知識や約束事を子どもたちへ伝えるとともに、保護者へも連絡帳・送迎時の会話・保護者会・お知らせ・「健やか子育てだより」などで、機会あるごとに情報提供を行っている。一方、職員へ向けては毎日の朝礼で保育に必要な健康情報を共有するとともに、内部研修を始めとする各会議で、知識・情報の共有を図っている。

8 評価項目8
保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている

評点（○○○○○）

評価	標準項目	
◉あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
◉あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
◉あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
◉あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
◉あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当

評価項目8の講評

入園時面接で保護者個々の状況・要望を聞き取って、その後の保育に反映させている

入園時における保護者との個別面談では、園長・主任が子どもの入園前の生活状況や健康状態を聞き取り、保護者の要望なども確認している。また、子ども及び家庭の状況は児童票などのファイルに記録され、保育に携わる全職員が情報共有を行った上で子どもたちへの日常保育に反映している。園は、保護者との信頼関係を構築することが保育には重要だと認識しており、送迎時の保護者との会話や連絡帳での保護者との直接的なやり取りに加えて、保護者からの相談に丁寧に応じている。

保護者同士が交流できる機会として、園行事や保護者会が活用されている

保護者同士の交流機会として、親子参加の園行事や保護者会があり、保護者会では保護者同士の意見交換の時間も設けている。園庭で行われる運動会・バス遠足会（昨年は芋ほり遠足会）・お地蔵祭りなどへは、毎年多くの保護者が参加している。また、保護者が運営する「保護者の会」もあり、各クラスから役員を選出して会の運営を担っている。運動会の手伝いや年間行事の人形劇は「保護者の会」の主催で行われるなど、保護者同士の交流の場としても機能しているが、就労状況の違いなどもあり、無理のない形で会の存続が図られている。

定例の保護者面談に加えて必要に応じた随時の面談も行い、保護者意向を確認している

園の保育に対する保護者の理解を得るために、年に2回の保護者会や保育参観及び年1回の保護者面談など、保護者が園を見る機会や保護者と話し合う機会を設けている。また、保護者からの要望に応えて随時の面談も実施している。また、コロナ禍により園を自由に見て回ることが心配な時期もあったため、保護者会では普段の園での活動を映像化して、子どもの様子や保育士との関りを見て貰うことも始めている。

9	評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている 評点（〇〇）		
	評価	標準項目	
	◉あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
	◉あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当

評価項目9の講評

区主催の地域保育会議に参加して、地域交流の機会を広げている

区が主催する「地域保育施設会議」へ園長が参加して地域情報を得ており、地域における他園との交流などに役立てている。また、都の民間保育園協会へも参加して情報収集に努めている。さらに、仏教保育における様々な会議へも参加して園運営に必要な情報を得ている。この3年間はコロナ禍により、多くの保育園が地域との交流をやむを得ず停止していたが、園は系列園との保育交流や隣の法人寺院の境内を活用したイベントなどによって、地域の人たちとの交流を例年通りに行うことができている。

園の行事に地域の人たちへの参加を呼び掛けるなど、地域と繋がる工夫に努めている

歴史のある仏教寺院を法人とする園は、年間行事に仏教行事も盛り込まれており、地域と交流する機会もより多い。園に隣接するお寺の境内で行われるお地蔵祭り（盆踊り）では、檀家さんを始め地域の人たちが、にぎやかに屋台や金魚釣り・ヨーヨー釣り・輪投げなどの模擬店を担当して、園の親子も十分に楽しめる行事のひとつである。園では、行事のたびに玄関にポスター掲示を行ったり、地域の人が参加できる行事は地域へ呼び掛けるなど、行事を通して園と地域の交流を図るよう努めている。

〔事業者が特に力を入れている取り組み：認可保育所〕

令和4年度

《事業所名：今泉保育園》

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	5-2-1	組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる
タイトル①	システム化を進めて、業務の効率化に取り組んでいる	
内容①	業務責任者が旗振り役となって、各種計画・記録類のパソコンへの入力作業を進めた。現在まで、①園児管理（登園・降園受付等）②保護者管理③行事カレンダー④ヒヤリハット報告⑤勤怠管理⑥勤務シフト管理、等のシステム化を図り、業務の効率化の大幅な進展をみた。また、パソコン操作のための園内研修に取り組んだ。しかしながら、情報管理の効率化には、職員のすべてがシステムを利用する必要がある。そのため、一部のシステムに不慣れな職員に対して習熟者が中心となって教え合い、園をあげてシステムを活用する態勢を整備した。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-2-2	サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている
タイトル②	卒園児のクラス会開催や運動会の招待など、支援の継続に配慮した取り組みを行っている	
内容②	卒園して1年目の子どもを対象にクラス会を開催している。ほぼすべての卒園児が参加し、旧担任の職員とともにゲームで遊んだりおやつを食べたりなど交流を深めている。新卒園児へは年賀状を送っており、卒園後の3年間は招待はがきを郵送して運動会への参加を呼びかけている。今年度の運動会には60名ほどの卒園児が参加し、特別に用意された綱引きなどの競技で楽しいひと時を過ごしている。小学生になった子どもたちが気軽に立ち寄り一緒に遊ぶ姿も見られた。地域に根ざした園として、卒園後も支援を継続して行くよう取り組んでいる。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目		
タイトル③		
内容③		

《事業所名：今泉保育園》

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	目標とする保育の理想を様々な場面に掲げ、子ども一人ひとりの創造性・自発性を大切にする保育に取り組んでいる
	内容	周囲を自然に囲まれた恵まれた環境の中で、創造性にあふれ、のびのびとした子ども達が成長している。創園以来の長い歴史の中で独自の保育理念が培われ、職員の研鑽により、さらに進化を続けている。健康のための外遊び・仲間との絆を深める課題遊び・自発性を養う自由遊びなどがバランスよく取り入れられている。園長から若い職員まで、それぞれが自己の専門性を磨き、造形・音楽・児童文学・調理といった得意分野の保育へ意欲的に取り組む中で、子ども達の情操が育まれている。
2	タイトル	保護者の園保育への満足度は大変高く、園と一緒に保育を行う意識と意欲が見られる
	内容	今回の第三者評価における利用者調査では、保護者からの回答率は80%であり、その内の96%が「大変満足」「満足」と答えている。また、自由記述や設問項目にも半数以上の保護者がしっかりコメントしており、満足・感謝の言葉と共に細かい要望や気づきを記している。保護者は、園と一緒に子どもたちを見守り、保育への参加意欲を示していると思われる。さらに、保育士の待遇改善を望む声もあった。園は、親・子・孫と3代に亘る子育て支援の実績を有して保護者支援に努めているが、保護者の理解と協力を得ることに注力している。
3	タイトル	「パートナー保育登録制度」を設け、在宅子育ての家庭や出産前後の保護者を支援しながら園の情報を発信している
	内容	見学希望者が登録したり、未入園児の保護者が児童館等で、人伝てに聞いて申し込むなど、「パートナー保育登録制度」の登録者数は20名を超えている。現在はコロナ禍のため中止となっているイベントもあるが、登録者へは移動動物園・お地蔵まつり・運動会・給食試食会などの行事案内を送付しており、開催時には園児らと共に交流を図る姿が見られている。また、保育所体験や育児相談・食事相談も受けており、在宅子育ての家庭や出産前後の保護者への支援を行いながら、園の情報発信をしている。

No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	職員個々の育成と研修を連動させた個人別育成（研修）計画の策定に期待する
	内容	すべての職員に様々な方法で研修等を実施している。しかし、計画性にはやや欠けていると思われ、各職員の意向や経験に基づく個人別育成（研修）計画の策定とともに、育成成果の計画への反映を期待したい。また、そのためには職員の階層（新規採用職員・若手・中堅・管理職、等）や職種別に必要となる資格・能力などを示した「園の人材育成計画」の策定も求められる。
2	タイトル	園長の定期個人面接の充実を図ることにより、職員のモチベーションのさらなる向上に取り組むことを期待したい
	内容	園長は一定の経験年数に達した役職員と年度初めに個人面接を行い、職務任命書の発行及び担当する仕事内容の指示を行い、成果が出ない場合には更迭している。一般職員には、翌年の進退伺を年1回実施し、要求があれば随時個人面接を行っている。一方、職員調査における「園は職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる」に対しては、低い評価が出ている。いっそうのモチベーション向上を図るために、園長がすべての職員と定期個人面接を行うことが有効と思われる。
3	タイトル	乳幼児期における保育園の役割は重要であり、子どもたちの安全安心と豊かな心を育むためにも、保育士の配置基準の見直しを国に要請したい
	内容	園は、子どもたちの情緒を育む日常生活への彩りとして、仏教保育も交えた年間行事を豊かに展開している。職員も一丸となって、子どもが行事に企画段階から参画できる取り組みを行っている。今回の職員調査にも記されているように、現場からは人手不足・人材不足の声も聞こえる。園は法定基準以上の人材配置を行っているが、そもそも法定基準が何十年も前に制定されたものであり、現状に合っているとは言い難い。国でも審議が始まっている「保育園における配置基準の見直し」を早急に期待したい。

NPO 法人せたがや福祉サポートセンター
東京都福祉サービス第三者評価機関
機構 04-123
〒154-0022
世田谷区梅丘 1-61-13 マンションアトリエ 301
TEL 03-6413-1506　　FAX 03-6413-1556
MAIL　link@fukusi-support.com